MORNING DISPATCH

2026-10-23

1. OpenAI、判定だけ返すAPIを一般提供
2. Claude Platform、Google Cloudで全機能
3. Ollama、コーディング用Flintに対応

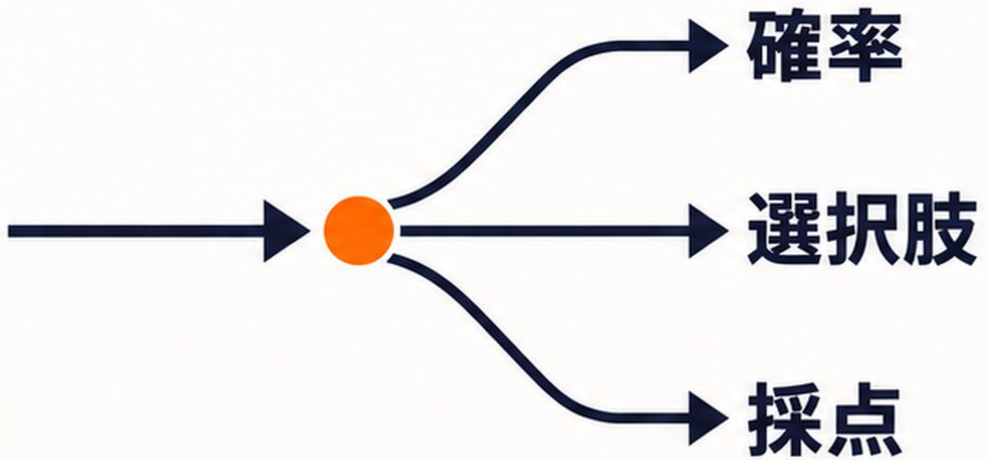
注目3件

TEKION Group

OpenAI、判定だけ返すAPIを一般提供

OpenAIは、文章を生成する代わりに「条件に当てはまる確率」「決まった選択肢のどれか」「採点基準に沿ったスコア」だけを返すDecisions APIを一般提供にしました。

- エンドポイントは `POST /v1/decisions`、対応モデルは現在 `gpt-6-luna` のみ
- 答えの型は3種類：確率（predicate）、選択肢（choice）、順序付きの採点（score）
- 1リクエストで最大400問まで（ベータ時は200問）



エージェントの分岐の判断に、毎回フルの文章生成を使わずに済みます。

Claude Platform、Google Cloudで全機能

Anthropicは「Claude Models on Google Cloud（Anthropic managed）」を一般提供にしました。

- Claude Managed Agents（ベータ）、コード実行、Computer use、Agent Skills、Files API、Web検索・取得…
- Claude Opus 5.5のFast Modeも一般提供。出力は最大2.5倍速く、料金は100万トークンあたり入力8ドル・出力40ドル
- 使えるモデルはClaude Fable 5.1、Opus 5.5、Sonnet 5.5、Haiku 5.5。新モデルも発表と同時に追加



Google Cloud中心の会社でも、Claudeの最新機能を遅れなく使えるようになります。

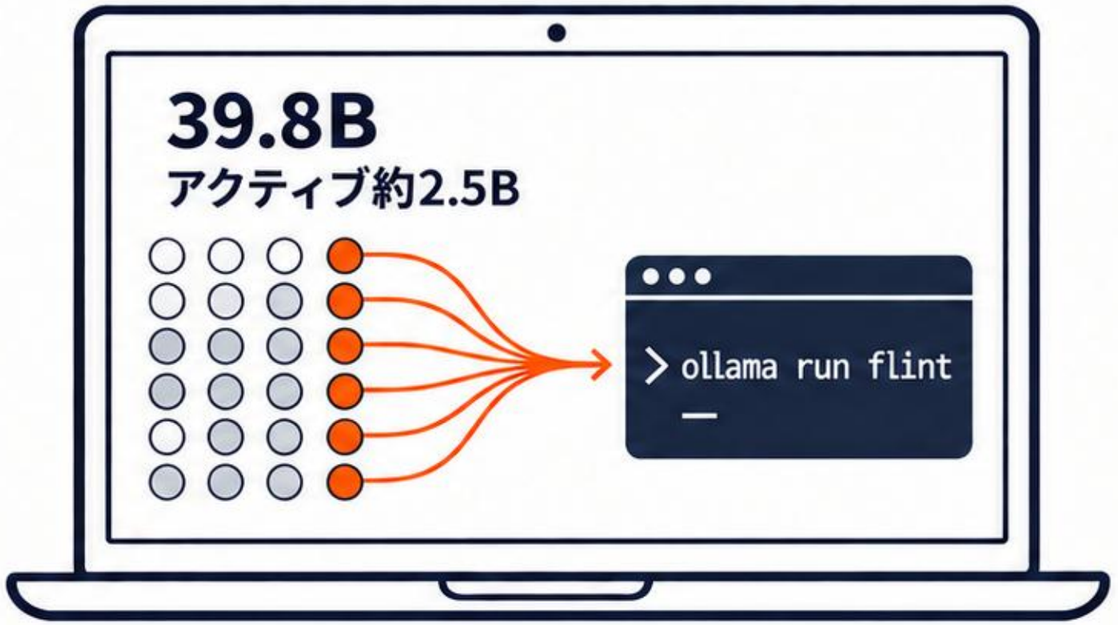
claude.com

TEKION Group

Ollama、コーディング用Flintに対応

Ollama 0.40.8で、Recursiveのコーディングエージェント向けモデル「Flint」を`ollama run flint`で手元で動かせるようになりました。

- 総パラメータ39.8B、アクティブ約2.5B。256個の専門家から1トークンごとに6個を選ぶ構成
- 文脈長は262,144トークン。推論と複数回のツール呼び出しに対応し、OpenAI互換のツール呼び出しが使える
- Recursiveの評価ではTerminal-Bench 2.1で54.9%、SWE-bench Verifiedで74.2%（自社測定）



Ollamaでの対応は現時点でmacOSのみ。手元のコーディング用モデルとして試せます。

Claude Code、新API版への移行コマンド

Claude Code 2.1.307で、`/claude-api api-version`が加わりました。

- `/claude-api api-version`で、Claude APIのバージョン2026-10-21への移行を支援
- OpenTelemetryに`claude_code.safety_event`を追加。権限ルール、auto mode、安全チェック、フック…
- 接続が途中で切れるとHTTPのMCPツールが2回実行される問題を修正。今後は読み取り専用など…



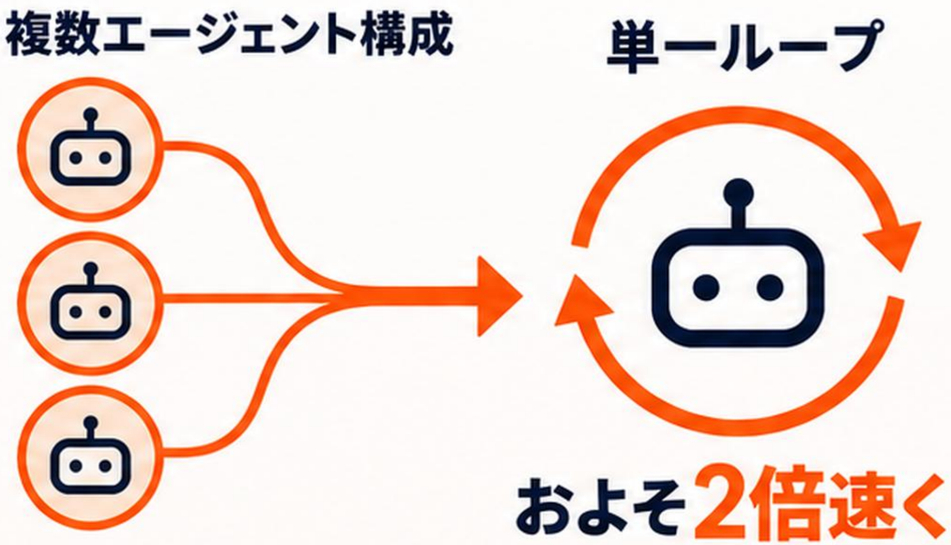
temperatureの廃止などを含むAPIの破壊的変更への対応を、Claude Code自身に任せられます。

github.com

〈知見〉サブエージェントは増やしすぎない

AnthropicのApplied AIチームが、企業向けのエージェントでは、ルーターやプランナー、分野別のサブエージェントをメインのエージェントループにまとめたほうが良い場合が…

- スキル（必要なときだけ読み込む手順書）とツール検索で、文脈とツールを少しずつ開示するのが基本の形
- チームごとにサブエージェントを作ると組織図の写しになり、文脈の受け渡しで情報が落ちる…
- ある企業の比較では、単一ループのほうが複数エージェント構成よりおよそ2倍速く動いた



「とりあえずマルチエージェント」にしがちな設計を見直す材料になります。

Cloudflare MCP、旧方式の/sseを廃止

Cloudflareが製品ごとに提供しているMCPサーバーが、`/mcp` だけを受け付けるようになりました。

- `/sse` へのリクエストは410 Goneを返し、正しい `/mcp` のURLを案内する
- 設定を `/mcp` に変えれば引き続き使える（例：`https://docs.mcp.cloudflare.com/mcp`）
- `/sse` 経由でサインインしていた場合は、もう一度サインインを求められる



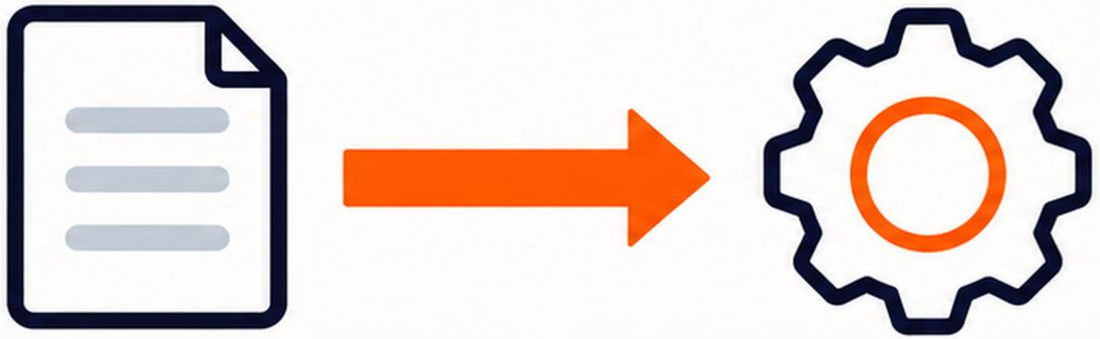
Claude CodeやCursorなどにCloudflareのMCPを古い設定でつないでいると、ある日突然つながらなくなります。

developers.cloudflare.com

Copilot、未設定の機能を既定値に

GitHubは、Copilot Business / Enterpriseで一般提供中の機能やクライアント機能について、9月に予告した「グローバル既定ポリシー」の適用を始めました。

- 10月22日から10月26日にかけて順次適用。組織によって反映のタイミングが違う
- 未設定の機能だけが、既定値（有効・無効・各組織に任せる）に一度だけそろえられる
- すでに有効・無効を明示している機能は、そのまま変わらない



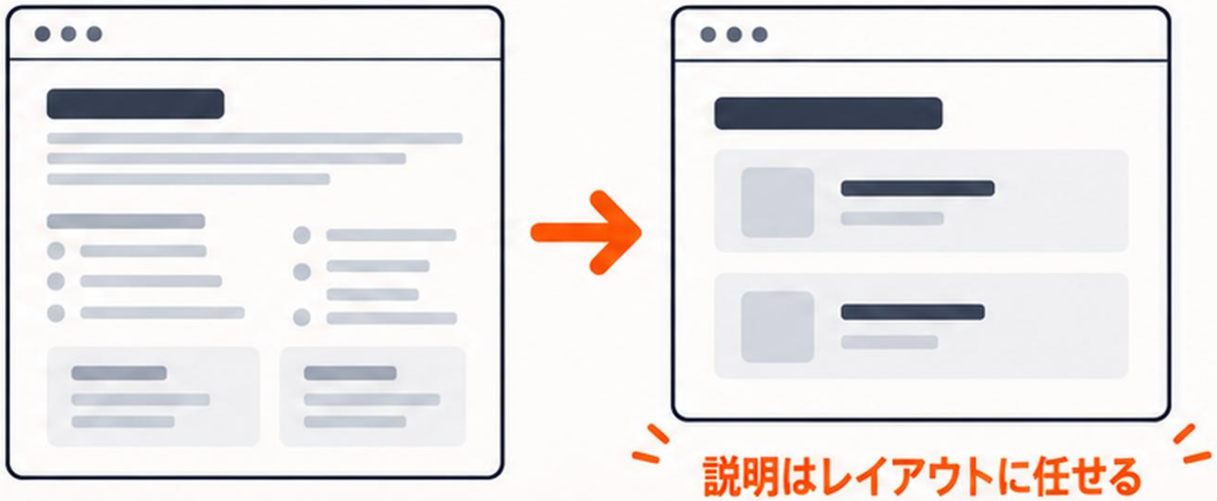
組織でCopilotを管理している人は、気づかないうちに機能やMCPサーバーの利用可否が変わる可能性があります。

github.blog

〈知見〉AIの画面は説明を足しすぎない

Claude OpusとGPT-6 AstraでUIを多く作ってきた開発者のZihua氏（@luinlee）が、AIっぽい雑な画面を避けるコツとして、AGENTS.mdに一文を書き足す方法を紹介しました。

- エージェントが毎回読む指示ファイル（AGENTS.md）に、方針を一文で入れておく
- 減らす対象は、見出し下の補足説明や重複したラベルといった「足し算」の要素
- 禁止語の一覧ではなく「説明はレイアウトに任せる」という方針で伝えている



Claude CodeやCodexで画面を作るとき、同じ一文をAGENTS.mdやCLAUDE.mdに入れるだけで試せます。

本日のトピック一覧

1. OpenAI、判定だけ返すAPIを一般提供
2. Claude Platform、Google Cloudで全機能
3. Ollama、コーディング用Flintに対応
4. Claude Code、新API版への移行コマンド
5. 〈知見〉サブエージェントは増やしすぎない
6. Cloudflare MCP、旧方式の/sseを廃止
7. Copilot、未設定の機能を既定値に
8. 〈知見〉AIの画面は説明を足しすぎない